

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立名護屋小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向け、全職員による共通理解のもと学習規律の定着や家庭学習の充実を図る取組を継続して実践することができた。家読や必読図書については、それぞれの進捗状況を把握しながら全体的な取組としての更なる充実を図ってきたい。 ・月ごとの生活目標を意識した取組を継続して実践し、目標に向かって意欲的に取り組む児童の割合は90%を上回るなど、学校全体の取組としての成果が見られた。 ・地域や保護者に対して、本年度の教育の目標や重点取組、実践活動の様子などの発信・周知を継続し、理解と協力を得ることができた。また、新型コロナ対応に伴う各行事等の縮小や制限を見直しながら改善を図り、次年度の計画につなげることができた。
------------------	---

2 学校教育目標	ふるさとを愛し、夢に向かって自ら輝く児童の育成 ～優しく 賢く 逞しい名護屋っ子～
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>(1)豊かな心の育成(児童理解と支援の推進) ～自他のよさに気づきながら、朗らかさと温かな心で行動する子ども(優しく)～</p> <p>(2)学力向上の推進(分かる授業の実践と学力向上への取組) ～未知の世界に関心をもち、自ら進んで学ぼうとする子ども(賢く)～</p> <p>(3)健康づくり・安全指導の充実(豊かな体験活動の推進) ～精一杯体を動かし、最後まで粘り強く取り組む子ども(逞しく)～</p> <p>(4)地域に開かれた学校づくりの推進(家庭・地域との連携) ～ふるさとを深く愛し、夢と誇りをもてる子ども～</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
				●学力の向上	○学びに対する構えの定着	○海青中校区各学年の家庭学習目標時間の達成率を90%以上 ○家庭学習提出率90%以上 ○学習用具の準備率を90%以上	・学校だよりや学級通信、懇談会などで呼びかけ、家庭との連携を緊密にする。 ・毎学期、「学びの構えアンケート」をとり、進捗状況を確認する。		B
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童全員が、「○○名人」に1回はなるようにする。 ○公の場で相手を尊重する呼称(さん)をつけることのできる児童を80%以上にする。 ○進んで挨拶できる児童を80%以上にする。	・生活のめあてに準じて、月ごとに○○名人の氏名を放送し、めあて達成への意識付けを行う。また、年間を通してめあての達成者を掲示し、動機付けを行う。 ・「～さん」と言っているかどうか、○○名人でも確かめ、評価する。 ・挨拶に対する達成度を自己評価する機会を設けたり、挨拶運動週間を設ける。	B	・「○○名人」の取り組みにより、児童の達成感の高まりがみられた。 ・～さんでの呼称については、公の場と遊びの場を区別して相手を思いやる呼び方をすることができ、名人に認定される児童が多く見られたが達成率は70%であった。 ・挨拶に関する動機付けを行うと盛んに挨拶することでき、達成率は90%以上であった。自主的な挨拶ができるように今後も声掛けをしていく。	A	・「○○名人」の取組はすばらしい。 ・様々な活動で思いやりの心を育てていることが、学校だよりで分かる。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者が、学校だよりで分かる。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○Q-Uテストで「学級生活満足群」の割合を70%以上にする。 ○いじめ未解決案件を0件にする。	・心のアンケートを学期に一回実施し、状況把握と児童の困り感の解決に努める。 ・Q-Uテストの結果を基に、SCやSSW等と協力しながら良好な対人関係を築く。	B	・学校生活の中で困り感をもつ児童の実態を把握し、全職員で共通理解を図るところまではいったと思われるが、その児童に対する具体的な対応策について実践することは不十分だったのではないかと感じる。一部の職員に任せてしまった感がある。	B	・先生に見守られている安心感が必要である。 ・先生と児童の間に思いやりと信頼が感じられる。 ・人の痛みが分かる児童に育ててほしい。	・生徒指導主任	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●児童へのアンケートにおいて、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合を90%以上にする。 ●◎児童へのアンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒を85%以上にする。	・校内研究の充実をはかり、楽しく分かる授業を展開するように努める。また、各教育活動において、児童への称賛的な声掛けや支援を意識した指導を行う。 ・努力して達成可能な年間の目標や各学期のめあてなどを立てさせると共に、それに向かって自ら率先して行動に移せるように環境を整え支援を行う。	・より楽しく分かる授業を展開するため、全学年の授業研究会を実施し、校内研究の充実を図った。授業中のみならず、各教育活動において、児童への称賛的な声掛けや支援を意識した指導を行った結果、数値目標の90%を上回る93%の達成率であった。 ・年間を通して、学期の目標や各活動のめあて等、児童の意欲や思いを教室に掲示してもらった。結果は82%と数値目標である85%を下回りはしたものの、児童の努力と取組に対するある一定の成果は見られたと思われる。	B	・より楽しく分かる授業を展開するため、全学年の授業研究会を実施し、校内研究の充実を図った。授業中のみならず、各教育活動において、児童への称賛的な声掛けや支援を意識した指導を行った結果、数値目標の90%を上回る93%の達成率であった。 ・年間を通して、学期の目標や各活動のめあて等、児童の意欲や思いを教室に掲示してもらった。結果は82%と数値目標である85%を下回りはしたものの、児童の努力と取組に対するある一定の成果は見られたと思われる。	A	・児童の才能を伸ばす指導をお願いしたい。 ・児童に目標をもたせることが大切である。	・教務主任
	○(学校独自重点取組・任意) 毎日の登下校指導	○毎日の登下校時の集合時刻を守っている児童生徒、地域の方へ挨拶をしている児童生徒を80%以上にする。	・5～6年生の地区長を毎月集め、当登下校の評価をさせたり、問題点を話し合ったりする。	・並び方が悪かったり、集合時間が守れなかったりする地区もあったが、問題点を話し合い指導したところ、ずいぶん改善したと思う。	B	・並び方が悪かったり、集合時間が守れなかったりする地区もあったが、問題点を話し合い指導したところ、ずいぶん改善したと思う。	B	・地域の話合いに学校側も参加してほしい。 ・下校時が心配である。	・生徒指導主任
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	・教員や委員会からの広報により外遊びを奨励したり、外遊びをよくしている学年を称賛したりする。スポーツ委員と連携し、全校遊びに取り組む。 ・スポーツチャレンジの記録を毎回更新しようとする意欲を継続するために、記録を掲示したり学級だよりで広報したりする。 ・学級指導や保健だよりで食事の大切さを伝えていく。 ・健康観察記録表に月毎に食の大切さを意識できる標語を載せる。	B	・スポーツチャレンジやなわとび名人の記録を掲示したが、それだけで終わってしまい、児童の頑張りがフィードバックできていなかった。放送や全校朝会などで呼び掛けるなどの工夫を今後していきたい。 ・「体育の時間のほかに運動を1日1時間より多くしていますか」というアンケートでは、「よくしている」が40%、「だいたいしている」が34%だった。成果指標には届かなかった。 ・スポーツ委員会との連携が薄かった(今後、健康委員会と合同になるので、そこも考える必要がある)。	A	・運動会では、児童の頑張る姿が見られた。 ・家では子供が好きな料理を多くする傾向があるので、学校給食はありがたい。	・保健体育部主任	
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童100%の育成	・健康観察記録表に月毎に食の大切さを意識できる標語を載せる。	・健康観察記録表に月毎に食の大切さを意識できる標語を載せる。	A	・健康観察記録表に月毎に食の大切さを意識できる標語を載せる。	A	・どの業界でも効率化に努めている。	・管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議資料のペーパーレス化を推進する。 ・会議の時間短縮と回数の削減に努める。 ・校務分掌が特定の者に集中しないよう配慮する。	A	・ペーパーレス化の推進により、会議の時間は改善され、資料印刷等の負担も減った。 ・全職員の時間外勤務の月平均は約29時間で、業務時間への意識は高い。	A	・どの業界でも効率化に努めている。	・管理職	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○地域に開かれた学校づくりの推進	○家庭・地域との連携 ○学校の教育方針並びに教育活動の広報	○地域の人材を活用した体験活動や地域と関連した行事に年間4回以上取組む。 ○地域行事への参加・協力を勧める。 ○地域向けに積極的に発信する。 ○学校だよりの発行や学校HPの更新等に努める。	・文化遺産 名護屋城址等について、地域の人と共に学び関心をもつようにする。 ・地域行事への参加・協力を勧める。 ・学校だよりの発行や学校HPの更新等に努める。	
○特別支援教育の推進	○特別支援教育の充実	○定期的に校内特別支援委員会等を開催し、教員間で情報共有・共通理解を行い、特別支援教育の充実を図る。	・児童が心身ともに安定した学校生活を送れるよう個人の特性を認め、肯定感情を高めあう雰囲気づくりに努め、常に寄り添った指導・支援を心掛ける。	B	・今年度は、長期休業中の研修報告や職員連絡会で気にとめおく児童の情報交換を行った。全職員の共通理解を図り、児童の支援に努めてきた。来年度へ向けた支援体制をとることができた。	A	・一人一人を大切に教育をお願いしたい。	・特別支援教育担当者

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・最終評価では1項目、学校関係者評価では7項目で「A:十分達成できている」との達成度(評価)であった。「B:おおむね達成できている」項目については、さらなる児童への意識付けと指導の徹底が必要である。また、具体的取組については検討を要する。 ・今年度はコロナ感染が落ち着いてきて、地域の方の協力で多くの体験活動を実施することができた。今後も「ふるさとを愛し、夢に向かって自ら輝く児童の育成」を目指して、教育課程に地域学習を位置付け、地域のヒト・モノ・コトを活用した特色ある学校づくりを推進していく。
--------------------	---